

日本の伝統文化を創造した人々

1 目標

- (1) 中世の人々に、死への恐れや河原者に対する差別（自分たちと異なった生活をする人々に対して）があったことを知る。
- (2) 中世の頃、差別されていた人々も民衆文化を築き支えていたことに気づく。

2 学習計画（全3時間）

- (1) 差別されていた人々が築いた民衆文化（1時間）
- (2) 民衆の間に生まれた差別（1時間）
- (3) 伝統文化を創造した人々（1時間）

3 展開

- (1) 差別されていた人々が築いた民衆文化

主な学習活動	留意点
<p>1 室町時代の文化について復習する。</p> <p>2 銀閣の庭、龍安寺の庭の写真を見て思ったことを発表する。</p> <p>3 銀閣の庭を造った「又四郎の言葉」について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">又四郎は、どんな人だろう。</div> <p>4 中世に差別されていた人たちがどんな仕事をしてきたかを知る。</p>	<p>能や狂言、茶道、墨絵、庭園づくり等、室町時代の文化で現在に受け継がれているものを確認する。</p> <p>資料1 銀閣の庭の写真（巻末資料1）</p> <p>資料2 龍安寺の庭の写真（巻末資料2）</p> <p>資料3 銀閣と又四郎（P4）</p> <p>資料4 「今様職人尽歌合」・「職人尽歌合」の女性たち、男性たち （巻末資料5・6）</p> <p>室町時代の文化を創造した多くの人々が、当時の社会のなかで差別を受けていたことに気づかせる。</p>



銀閣の庭

資料3 銀閣と又四郎

室町時代、庭造りの名人といわれた「善阿弥」という人がいました。
八代将軍の足利義政も彼の技術をこよなく愛していました。有名な銀閣などの庭も彼の子の「小四郎」
そしてその孫の「又四郎」の三代によって完成されたと言われています。
ある日、善阿弥の孫の又四郎は、京都の相国寺の僧侶「周麟」に、次のような話をしました。



私は、人々から差別される立場にあることを心から悲しい
と思います。

だから、生き物の命はちかって奪わないようにしている
し、めさきの利益や欲にまどわされないように自分をいまし
めています。

以前、道で蚊帳(かや)をひろって落し主にわたしたら、今で
も道で会うと感謝されているんです。

この又四郎の話を聞いて、周麟は次のように言いました。

又四郎こそ人間である。ちかごろの坊主のやっ
ていることなどは、この者には及ばない。本当
に恥ずかしいことだ。



京都部落史研究所編 「京都の部落史3 史料古代中世」 1984 阿吽社
外川正明 「部落史に学ぶ」 2001 解放出版社をもとに作成

トピック：賤視されていた「仙水河原者」

龍安寺などの庭園は、「仙水河原者」と呼ばれ当時差別されていた人々が造ったと言われている。当時の人々は、日常とは異なる状態を「ケガレ」ととらえ、人の死、出産、災害、犯罪などとともに、庭園造りも「ケガレ」に関わるものであるととらえられていたが、庭造りは理論書に基づいて行われていた。このことは、「泉石妙手」と称えられた善阿弥の孫、又四郎の「懐中より一冊を出して曰く。是、植樹、拝石、吉凶を擇び、月日を選ぶの書なり」という「鹿苑日録」の記述から伺い知ることができる。しかしながら当時は、自然に働きかける「仙水河原者」の人々を、「ケガレ」た存在と見ていたのである。

【参考】京都部落史研究所編 「京都の部落史1 前近代」 1995 阿吽社

(2) 民衆の間に生まれた差別

主な学習活動	留意点
1 前時の復習をする。 2 本時の課題をつかむ。	又四郎はどんな人だったか思い出す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> すばらしい技術をもつ又四郎は、なぜ差別されたのだろうか。 </div> 3 絵巻物の一部を見て、気づいたことを話し合う。 平安時代の人々が、死に対して大変恐れていたことを知る。 4 この頃、死んだ人や牛、馬を、どのようにしたかを考える。 5 資料を見ながら河原に住む人々の様子を想像する。 6 学習のまとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 資料5 春日権現験記録起絵巻(巻末資料3) 死への恐れから河原に運ばれていたことに気づかせる。 資料6 河原にできた中世の町(巻末資料4) 又四郎は、この河原に住む者の一人で、河原に住む人々同様に差別されていたことに気づかせる。 恐れ 自分たちとは異なる人々 差別意識 畏れがやがて自分たちと異なる人々というとならえ方になり、差別意識につながったことを知る。 </div>

(3) 伝統文化を創造した人々

主な学習活動	留意点
1 「又四郎の言葉」を思い出し、又四郎の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 相国寺の僧、周麟の言葉「又四郎こそ人間である」とは、どういう意味だろう。 </div> 3 学習のまとめをする。 又四郎と周麟の言葉に自分の思いを重ねてさらに現在の自分と重ねながら、感想をワークシートに書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 資料7 ワークシート(P6) 又四郎の言葉の意味を見つめ直す。 「悲しむ」の意味を考えさせる。 差別する人の心の悲しさに気づかせる。 又四郎の生き方から、人間として大切なことは何か考えさせる。 このふたりのつながりを、差別のなかにあってもそれを乗り越えて、つながり合おうとする関係であったことに気づかせる。 自分の考えを書かせる。 </div>

